

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100610
法人名	医療法人 浩洋会
事業所名	グループホーム ゆりかもめ
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4-5-14 (電話) 0982-50-4189

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1-101
訪問調査日	平成19年6月28日

【情報提供票より】(H19年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 18 人
職員数	6.5人 常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5

(2)建物概要

建物構造	鉄筋・平屋 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	75歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田中病院 ・ 木村歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR門川駅から徒歩で約5分、国道10号線にも近く母体の病院に隣接し、利便性の良好な場所にホームは立地している。「その人のペースで自由にその人らしく生活できる」を理念に運営者、管理者、職員が一体となってサービス向上に取り組んでいる。家族には毎月ホーム便りを発行し近況を伝え、運営推進会議も充実している。母体病院との連携で何時でも自由に受診や健康上の相談ができることから、利用者や家族は安心して生活している。職員の暖かいケアに支えられ全員の表情が明るい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	契約書の整備や浴槽の手すりの取り付け、運営推進会議の充実等は確実に改善されている。又、鍵をかけないケアと介護計画の見直しは現在改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価の意義を前向きに捉え、具体的に活用しようとする姿勢が見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、最近の会議では事業所が独自で実施した、利用者・家族等アンケート調査の結果について意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族にはホーム便りを毎月発行し近況を伝えている。又、家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態等をきめ細かに伝え、相談や苦情を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会に参加したり、近くの保育園との交流等地域の一員として地域との連携を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人のペースで自由にその人らしく生活できる」を理念に全員でサービスの向上に取り組んでいる。又、地域密着型サービスの役割についても理解している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや朝夕の申し送りの際に、理念について確認し合い、理念の実践に向けて全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会に参加したり、近くの保育園との交流等地域の一員として地域との連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を前向きに捉え具体的に活用しようとする姿勢が見られる。前回の外部評価について、契約書の整備や浴槽の手すりの取り付け等評価を活かした改善が実施されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近開催された運営推進会議では、主な議題として事業所が独自で実施した利用者・家族等アンケート調査結果について意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者には管理者がホームの実情や情報を定期的に報告し、担当者からは適切な指導をいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはホーム便りを毎月発行し近況を伝えている。又、家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態等をきめ細かく伝え、金銭についても金銭出納帳を明示し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族に対してアンケート調査を実施してサービス向上に反映させている。又、家族の訪問時に相談や苦情を気軽に言える雰囲気づくりにも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成15年12月開設以来異動や離職者はなく、馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は人材育成に積極的であり、職員は法人内外の研修に数多く参加し、その内容は復命書等で全員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北地区の管理者連絡会に毎月出席し、情報交換や勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族から事業所を見学してもらったり、これまでかかわっていた関係者の協力を得る等本人が安心してサービスを受ける事ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員は共有しており、調理方法を教えてもらったり、苦しみ、不安、喜びを分かち合える関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から利用者一人ひとりの思いや、暮らしの希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を充分聴き、介護計画に反映させている。又、職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングと6ヶ月に1回の介護計画の見直しを行っている。	○	安定している利用者の場合も、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況を確認する必要があり、実情に即した介護計画の見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や早期退院の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院との連携が取れており、いつでも相談、受診が出来る体制となっている。又、馴染みのかかりつけ医や医療機関がある場合は希望するところで受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の終末期のあり方については、本人や家族並びに母体病院と話し合いは行っている。		
母体病院本人や					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることのないよう、言葉かけや語調等に細心な配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自分のペースで納得のいく暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの希望や好みを出来るだけとりいれ、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にその日の健康状態を確認し、希望に合わせて毎日入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備の手伝いや後片付け、新聞紙を使ったチリ箱づくり等一人ひとりに合った楽しみごとや役割をうまく作り出す工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や本人の希望に応じて、近くの川の堤防を散歩したり、買物に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、徘徊する利用者がいて、安全のため家族の了解を得て日中玄関に鍵をかけている。	○	見守りの工夫や地域の協力を得て、何とか鍵をかけないケアが出来ないか検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成しており、月に1回の避難訓練と母体病院と合同で年に2回の防災訓練を実施している。又、警察署、消防署との連携も図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分量を職員は把握しており、嗜好にも配慮したバランスの良い献立となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は全体的に広々としており、家庭的で落ち着きがあり、利用者が安心して居心地よく暮らせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出の写真や、使い慣れた家具、生活用品が多く持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮がされている。		